

## 飯田市上村におけるソウシチョウ *Leiothrix lutea* の生息状況

大原 均\*・堀田昌伸\*\*

2004年と2005年の繁殖期に、長野県南東部の飯田市上村で、侵入鳥類ソウシチョウ *Leiothrix lutea* の生息状況を調査し、16ヶ所で生息を確認した。そのうち、1ヶ所で巣立ち雛を連れている番いを確認した。

キーワード：ソウシチョウ, *Leiothrix lutea*, 侵入鳥類

### 1. はじめに

ソウシチョウ *Leiothrix lutea* は中国南部から東南アジアにかけて分布しているチメドリ科の鳥である<sup>1)</sup>。昔からその姿や鳴き声を楽しむために飼い鳥として輸入されてきたが、我が国には自然分布しない。しかし、1980年頃から九州全域、関西の六甲山、関東の丹沢・筑波山において生息のみならず繁殖する個体群が観察されるようになってきた<sup>2), 3)</sup>。そして、どの地においても分布域が周辺地域へ広がったり、高標高地域から低標高地域へ拡大したりといった内容が報告されている。

長野県では、1990年代後半より南アルプス山麓を中心に確認されている(表1)。しかし、いずれも断片的な観察であり、生息個体数(密度)および生息期間、分散状況などについては明らかにされていない。また、巣や巣立ちヒナなど繁殖に関わる観察例の報告はなく、県下における繁殖については未だに明らかにされていない。本研究では、2004年と2005年にかけて飯田市上村地籍において同種の生息状況の調査を行い、生息数及び生息環境、繁殖状況について一定の知見を得ることができたので報告する。

なお、2005年6月1日より「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」が施行され、ソウシチョウは特定外来生物に指定されている。

### 2. 調査地の概要および調査方法

調査地は、長野県南東部の飯田市上村地籍(旧上村)の、北又沢以东を除いた南アルプスの西山麓で

ある(図1)。海拔約500mから2112m(尾高山)と標高差が大きく、谷沿いのわずかな平坦部を除けばほとんどが急な傾斜地である。人口は800人弱、林野率98%である。豊かな森林資源に恵まれ、低い地域にはスギやヒノキが植栽された人工林が多く、標高が高くなるにつれ植栽されたカラマツ林のほか、ナラ・カエデ・ブナなどの広葉樹を中心とした二次林の占める割合が高くなる。鬼面山や尾高山の山頂部にはダケカンバやツガ・シラビソなどが見られる。林床にはササや灌木が見られるがその密度は場所によって大きな違いがある。

調査コースは、登山道や林道を利用して任意に設定した(調査コースの総延長は約35.4km)。調査は、コースを歩きながら姿や囀りなどでソウシチョウを確認し、その結果から生息個体数や分布状況を把握した。また、ソウシチョウが繁殖をしているかどうかを調べるために2005年5月24日と6月20日に鬼面山登山道で、同年6月12日と20日に矢筈林道周辺、7月21日に小川路峠への登山道周辺で各番いを追跡し、繁殖を決定づける巣の発見や行動の確認に努めた。

### 3. 結果及び考察

#### 3.1 生息数と生息環境

2004年に地蔵峠から鬼面山にかけての登山道沿いの2ヶ所でソウシチョウを確認した。2005年には、2004年に観察した2ヶ所を含む、16ヶ所でソウシチョウを確認した(図1)。同時さえずり等により、それぞれの確認個体は別々であることを確認している。

ソウシチョウが観察された最も標高の高かった地

\* 長野県林業総合センター 〒399-0711 塩尻市片丘5739

\*\* 長野県環境保全研究所 自然環境チーム 〒381-0075 長野市北郷2054-120

点は鬼面山山頂の1800m付近であり、反対に標高の低かった地点は小川路峠への登山道途中の1200m付近であった。これは低山帯の上部から亜高山帯の下部までの範囲にあたる。最上部が約1800m付近であったことは九州の場合とよく似ていたが、最下部は筑波山塊の約300mや九州の脊振山の約700mと比べるとかなり高かった<sup>2), 3)</sup>。

地域ごとのソウシチョウの生息状況を見ると、鬼面山から小川路峠にかけての山域の東斜面では、15ヶ所で観察されたのに対し、尾高山から御池にかけての山域の尾根部や西斜面の調査ルートで観察されたのは1ヶ所だけであった。この理由については今後の研究課題であるが、ソウシチョウの生息環境であるササや灌木林の有無との関連が考えられる<sup>2)</sup>。

今回確認した16ヶ所のうち14ヶ所では、ナラやサクラ・カエデなどの広葉樹の中にツガ・モミ・カラマツ等が混じった二次林であった。一方、残りの2ヶ所はヒノキの幼木の植栽林と伐採後の灌木が密生する林であった。

ソウシチョウの行動を観察した結果、高木層や亜高木層で見かけることはほとんどなく、林内の下層のササや低木が密生した中を動き回っている姿がよく見られた。これは、常緑広葉樹林の中下層部を主な活動場所としているという原産地での生息状況に関する報告<sup>1)</sup>、そして、下生えにササ類の被度が高い環境に出現するという九州での生息環境に関する報告<sup>2)</sup>とも一致した。

## 2.2 繁殖の可能性について

地蔵峠から鬼面山にかけての登山道と矢筈林道で、繁殖の手がかりになる事象は観察できなかったが、小川路峠の登山道付近で3～4羽の巣立ち雛を連れてくる番いを確認した。このことから当地でソウシチョウが繁殖がしている可能性が示唆された。

## 2.3 他種との関係

移入種が定着する過程には、その種自身の生態的な適応だけでなく、ハビタットが似ている在来種とどのような関係を作っていくかという問題がある<sup>4)</sup>。当地の場合、ソウシチョウとハビタットが似ている種としては、ウグイスやセンダイムシクイ、ヤブサ

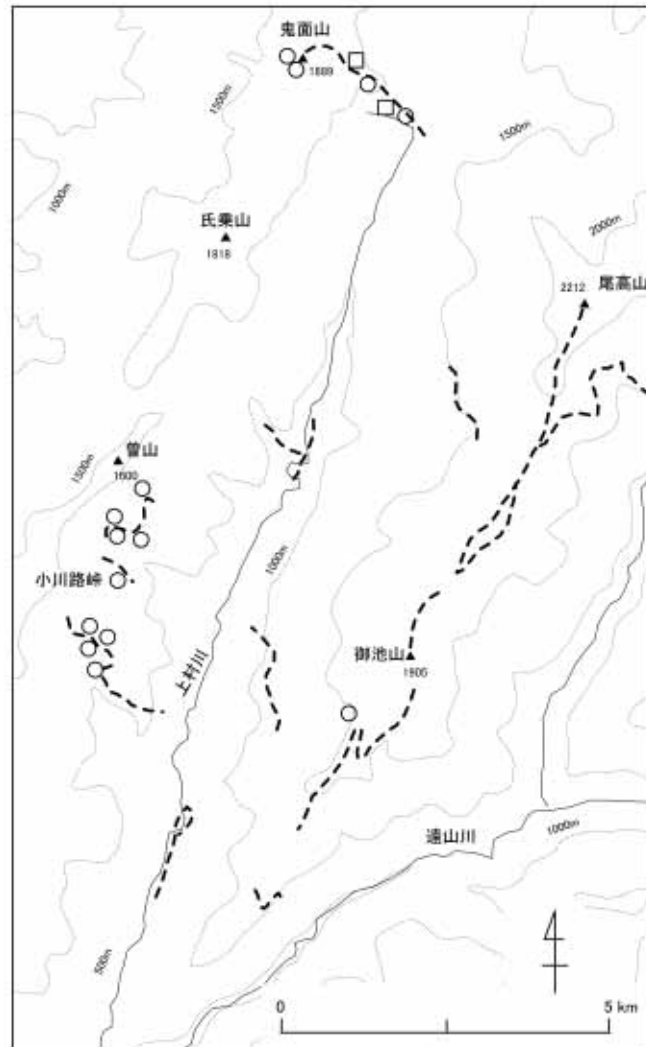


図1 ソウシチョウの確認場所

1994年と1995年の両年で観察された場所(□印)と1995年のみで観察された場所(○印)にわけて示した。調査ルートを破線で示した。

メなどのウグイス亜科の鳥類をはじめ、コルリなどが考えられる。それらの中で、ソウシチョウの侵入で特に影響を受けると考えられる種としては、巣場所が競合すると考えられるウグイスがあげられる。しかし、ソウシチョウはウグイスよりも営巣可能な環境の幅が広いので、ウグイスが利用しないような環境を利用している可能性が指摘されている<sup>5)</sup>。一方、センダイムシクイ・ヤブサメ・コルリは地上付近に営巣するので巣場所をめぐる対立は少ないと考えられる。

餌や採餌環境など営巣環境以外の競合も考えられる。ハワイに移入したソウシチョウは昆虫以外に果実を主な餌としている<sup>6)</sup>。このように代替の食物を利用できることが個体数増加に有利であるという議論もある<sup>4)</sup>。国内ではソウシチョウの採餌空間はシ

表1 長野県内におけるソウシチョウの確認例

年 月 日	場所	個体数	観察者・文献
1995年	飯田市大瀬木		前島正介
1997年5月2日	須坂市臥竜公園	♂1	清水良昭
1998年	下伊那郡松川町生田		前島正介
2001年2月	下伊那郡松川町生田	1	鷺田俊一
2001年6月3日	下伊那郡南信濃村青崩峠	2	桐生尊義
2001年10月15日	南佐久郡川上村宿	4	杉山要
2001年11月23日	諏訪市尾玉	3	いわすずめ <sup>7)</sup>
2002年4月20日	上伊那郡長谷村塩平	1	今西貞夫
2004年11月9日	塩尻市東山地域	1	残したい塩尻市の動植物 <sup>8)</sup>

ジュウカラ類やウグイスの採餌空間と異なるという報告がある程度であり<sup>2)</sup>、まとまった報告はまだない。

県内におけるソウシチョウの生息状況や生態等に関する情報はまだ十分ではない。そのため、今後は多くのソウシチョウが確認されている当地で生息場所や他種との競合関係などより詳細な調査をおこなうとともに、各地でデータの収集をおこない、県内における分布動向や他種との関係について注目していく必要がある。

本報告にあたり、旧上村の教育委員会には多方面にわたり便宜を図っていただいた。また、地蔵峠における近年のソウシチョウの生息状況については大鹿村の前島正介氏に教授いただいた。さらに、今西貞夫氏、桐生尊義氏、清水良昭氏、杉山要氏、そして、鷺田敏一氏には各地の情報を提供いただいた。これらの方々には深謝いたします。

## 文 献

- 1) Long, Z. (1987) *Leiothrix*. In Cheng, T., Long, Z. & Zheng, B. (eds.) *Fauna Sinica. AVES. Passeriformes. Muscicapidae. II. Timaliina*. p 154-162. Beijing, Science Press. (in Chinese).
- 2) 江口和洋・増田智久 (1994) 九州におけるソウシチョウ *Leiothrix lutea* の生息環境. 日本鳥学会誌, **43**, 91-100.
- 3) 東條一史 (1994) 筑波山塊におけるソウシチョウ *Leiothrix lutea* の増加. 日本鳥学会誌, **43**, 39-42.
- 4) 江口和洋・天野一葉 (1999) 移入鳥類の帰化. 日本鳥学会誌, **47**, 97-114.
- 5) Amano, H.E. & Eguchi, K. (2002) Nest-site selection of the Red-billed *Leiothrix* and Japanese Bush Warbler in Japan. *Ornithological Science*, **1**, 101-110.
- 6) Long, J.L. (1981) *Introduced Birds of the World*. Reed, Wellington.
- 7) 日本野鳥の会諏訪支部 (2002) いわすずめ No.82.
- 8) 塩尻市 (2006) 残したい塩尻の動植物—レッドデータブッカー, 168pp, 塩尻市市民環境事業部環境保全課, 塩尻市.

**The Status of the Red-billed Leiothrix *Leiothrix lutea*  
in Kamimura, Iida City, central Japan**

Hitoshi OHARA\* and Masanobu HOTTA\*\*

\* *Nagano Forestry General Center, Kataoka 5739, Shiojiri City, Nagano 399-0711, Japan*

\*\* *Nagano Environmental Conservation Research Institute, Natural Environment Team,  
2054-120 Kitago, Nagano 381-0075, Japan*